

中山間地域の未来創造支援事業の進捗状況について

1 要旨・目的

若年層の流出や少子高齢化の進展による担い手不足等が続いている中山間地域における産業対策を基本とした就業機会の創出に向け、関係市町が取り組む「未来創造計画」について、令和2年度の進捗状況を取りまとめるとともに、これまでの事業全体の振返りを行った。

2 現状・背景

中山間地域では、産業の縮小に伴う雇用の場の減少により、若年層の流出による人口減少や少子・高齢化が進んでいる。若年層の雇用創出につながる産業対策を市町レベルで加速させることで、社会減少の抑制につなげていくことを目指してきたものである。

3 概要

(1) 対象者

令和2年度に「未来創造計画」に基づく取組を実施した、中山間地域を有する5市町（府中市、江田島市、世羅町、神石高原町及び東広島市）

※ 令和元年度までに計画期間を終えた11市町については昨年度までに報告済み

(2) 事業内容

中山間地域を有する市町は、観光関連施設の整備や農林漁業の6次産業化など、地域の特性や強みを生かして策定した未来創造計画に基づく取組を、平成23年度から順次開始した。

そのスタート時において、県は、各市町に対する財政支援を実施し、その後、計画期間中は、県関係部局によるバックアップ体制のもとで、市町とともにPDCAサイクルを回しながら、目標達成に向けた助言や、各局連携した支援などに取り組んできた。

(3) スケジュール

—

(4) 予算

3,000千円（単県）

(5) 事業効果・検証結果

ア 令和2年度の進捗状況

5市町が未来創造計画の最終年度となった令和2年度については、コロナ禍の影響が大きかったことから、バックアップ会議において今後対応すべき課題と対応の方向を整理して終了した。

イ 未来創造支援事業全体の振返り

令和2年度をもって、上記アの5市町を含む関係全16市町で計画期間が終了したため、次のとおり全体の振返りを行った。

- 市町が策定した未来創造計画に基づく、産業対策を基本とした地域活性化の取組を支援してきた（H23～R2）。
- 県関係部局によるバックアップ体制のもとで、市町とともにPDCAサイクルを回しながら取組を進めたことにより、人口減抑制に一定の効果はあったものの、豪雨災害やコロナ禍の影響などが大きかったことから、目標達成には至っておらず、今後、取組の一層の強化を図っていく必要がある。

【未来創造計画による人口減抑制効果】

| | 目標 | 実績 | 差引き |
|--------|--------|--------|---------|
| 全域過疎市町 | 2,866人 | 1,683人 | -1,183人 |
| 一部中山間市 | 397人 | 162人 | -235人 |
| 計 | 3,263人 | 1,845人 | -1,418人 |

- 市町からは、
 - ・ 事業をきっかけとしてノウハウの蓄積ができた
 - ・ 県からの助言により取組の前進につなげることができたといった、事業について前向きに評価する意見が多く寄せられた。

(6) 今後の対応

計画期間終了後も各市町の総合戦略において取組が継続されることから、令和元年度までに終了した市町も含め、この間明らかとなった課題に対し、積極的な助言等に努めていく。

なお、府中市については、計画策定後の社会・経済情勢の変化に伴う新たな課題等に対応するため、今年度、計画期間を令和6年度まで延長するフォローアップ計画を新たに策定しており、県としては目標達成に向けて、引き続き必要な支援を行っていく。

4 その他（参考）

【計画最終年度における目標達成状況（関係全16市町）】

※網掛けは令和2年度が最終年度の5市町

| 区分 | 市町名《計画期間》 | 目指す将来像【主な指標】 | 最終年度のポイント |
|-----------------------------------|--------------------------------|--|---|
| ◆ 最終目標をほぼ達成したものの | 三次市 《H24～H28》 | ➢ さらなる産業集積による県北の中核的都市の形成 【企業誘致件数, 観光消費額】 | 中国やまなみ街道の全線開通によるアクセス向上で、企業立地件数は最終目標を上回った。 |
| | 安芸太田町 《H24～H28》 | ➢ ヘルスツーリズムによる地域の再生 【観光消費額】 | 祇園坊柿の急速冷凍装置の導入により生産効率が向上し、加工品販売額の伸びに寄与 |
| ◆ 一部に未達があるが、改善策により最終目標達成の見込みがあるもの | 世羅町 《H23～R2》 | ➢ 農業のメッカ《世羅町》の確立 【新規就農者数】 | 就農相談は増加するも、希望者に提示する明確なビジョンが描き切れず、目標は未達成 |
| | 尾道市 (御調・瀬戸田) 《H27～R元》 | ➢ 御調道の駅を拠点とした販売と生産の好循環の創造 【道の駅売上額】 ➢ 瀬戸田中心市街地に「ひと」が集まる魅力づくり 【観光客数, 新規開店数】 | 道の駅での商品開発等に取り組んだが、やまなみ街道全通による導線の変化や、H30豪雨災害の影響で売上は減少傾向 瀬戸内海への注目度が高まる中、サイクルシップの運航やメディア露出により観光客数が大幅に増加 |
| ◆ 計画最終年度に最終目標に届かなかったもの | 府中市 《H27～R2》 (※R6まで延長) | ➢ 中心市街地、上下地区を中心とした賑わいの創出 【空き店舗等活用者数, 道の駅販売額】 | 空き店舗等活用者数は順調に増加。一方、道の駅販売額はコロナ禍における休業等の影響もあり、目標は未達成 |
| | 庄原市 《H23～H30》 | ➢ 高野地域の《成功》を庄原市の《成功》へ 【総観光客数, 観光消費額】 | 新ご当地グルメ等の販路開拓等の効果はあったものの、7月豪雨により、総観光客数、観光消費額ともに前年を下回った。 |
| | 安芸高田市 《H24～R元》 | ➢ 観光と農業で支える伝統文化の里 【観光客数(主要施設), 観光消費額】 | 観光客数は、H30豪雨災害から回復するも、観光消費額は伸び悩み。その一方で、産直市の売上は好調 |
| | 江田島市 《H24～R2》 | ➢ ブランド強化及び交流充実による産業活性化 【農業販売額, 観光消費額】 | コロナ禍で外食産業の低迷によりカキの販売単価が低下。観光消費額も大きく減少し、目標は未達成 |
| | 北広島町 《H24～R元》 | ➢ 都市との近接性を活かしたバリュー・ブランドの構築 【観光消費額, 農業販売額】 | 雪不足によりスキー客が激減し、観光消費額が低迷。農産物は、価格の低迷等により販売額が減少 |
| | 大崎上島町 《H24～H28》 | ➢ フルーツアイランド大崎上島の再生 【観光消費額, 新規就農者数】 | 教育旅行は、受入校・人数とも過去最高となり、観光消費額は順調に推移 |
| | 神石高原町 《H24～R2》 | ➢ 神石高原ブランドの確立《源流の里神石高原》 【農業販売額, 特産品販売額】 | トマト団地の未整備やぶどう、和牛の担い手リタイアなどにより販売額は目標未達成 |
| | 呉市 (島しょ地域) 《H27～R元》 | ➢ くれブランドが輝き続けるアイランド 【入込観光客数, 新規漁業者数】 | 観光客数は、H30豪雨災害前の水準まで回復。新規漁業者の確保ができず、安定した収入モデルを構築中 |
| | 三原市 (久井・大和) 《H27～R元》 | ➢ 観光交流で賑わい、住民が輝く地域づくり 【総観光客数, 観光消費額】 | 観光客数は概ね目標を達成するも、消費単価の減少などにより消費額は未達成 |
| | 大竹市 (栗谷・松ヶ原) 《H27～R元》 | ➢ 「マロンの里交流館」を核とした地域まるごと6次産業化 【マロンの里販売額】 | 夏場の高温・少雨の影響で、野菜が品薄となり、利用者数・売上額ともに目標額に届かず。 |
| | 東広島市 (福富・豊栄・河内) 《H28～R2》 | ➢ 地域拠点連携による、魅力ある県央地域の創生 【新規就農者数, 道の駅等販売額】 | 新規就農者数は、単年では計画どおり確保。道の駅は、イベントの中止等により、来訪者数・販売額とも減少 |
| | 廿日市市 (吉和) 《H28～H30》 | ➢ 自然や食を生かした体験交流地域の形成 【魅惑の里売上額】 | 吉和地域へのインバウンドを含めた体験観光の誘客に注力 |